



マレーシアの選手らはイスラム教に対応した食事を楽しんだ（町田市）

首都圏の自治体の中で、東京五輪・パラリンピックに向けて外国との交流を深める動きが広がっている。特定国のパートナーとなる「ホストタウン」に登録された自治体では、相手国のスポーツ選手を招いたイベントや外国語教室、特産品の紹介などを通じておもてなしの技を磨く。五輪の事前合宿を誘致するなど、地域経済の活性化につなげる狙いもある。

五輪へ我が街助走

2020 TOKYO

南アフリカのホストタウンになった東京都町田市は、さらにマレーシアのホストタウンも目指して交流を深めている。6月にはサッカーのマレーシアU-22（22歳以下）代表チームを招き、地元J2の「FC町田ゼルビア」と親善試合を開催した。

同市を訪れたマレーシアの選手にはイスラム教の戒律に従った食事を提供するなどして歓待。同市スポーツ振興課の神野幹也さんは「経験を積み重ね、おもてなしのスキルを磨きたい」と話す。

外国語による日常会話の習得を後押しするのは、スリランカのホストタウンの千葉県山武市だ。8月から月2回、公用語のシンハラ語教室を開く。今後スリランカ人が市を訪れる機会が増えるのとみて、会話力をおも

てなしに役立てる考えだ。

相手国との交流イベントも活発になる。ニュージーランドのホストタウンになった神奈川県厚木市は、8月6、7日に初めて「あつぎニュージーランドフェア」を開く。夏祭り会場に特設ブースを出し、ミートパイ、ラムチョップなどの料理や、キウイフルーツドリンク、マヌカハニーレモンなどの特産品を紹介。同国の文化に気軽に触れられるようにする。

ド女子ラグビーチームのキャンプ地誘致を目指している。5日には市内の栗田工業ラグビー部OBで元ニュージーランド代表のポール・ミラー氏を3人目の「あつぎホストタウン交流大使」に任命。現地の人脈を生かし、中高生の交流事業やお互いの企業の紹介などに協力してもらう考えだ。

アフリカのエリトリアのホストタウンである神奈川県小田原市、箱根町なども同国の陸上選手と子供たちとの鬼ごっこや小学生への陸上指導など、交流活動に熱心だ。ブータンのホストタウンの埼玉県寄居町は、同国選手団の事前合宿の誘致を目指している。5月には3日間にわたり同国の陸上選手らの視察団を迎えた。交流行事にはブータンのスポーツ親善大使を務める元五輪陸上選手、為末大さんが出席。選手らは町内の民家に1泊ホームステイした。事前合宿が行われるかどうかは「回答待ち」（総合政策課）だが「交流イベントを続けてスポーツ文化を広げたい」と話す。

首都圏でも多くの自治体がホストタウンに登録

東京	武蔵野市	ルーマニア
	調布市	サウジアラビア
	世田谷区	米 国
	青梅市	ド イ ツ
神奈川	町 田 市	南アフリカ
	神奈川県ほか	エリトリア
	横 浜 市	英 国
	川 崎 市	英 国
埼玉	平塚市ほか	リトアニア
	厚 木 市	ニュージーランド
	三 郷 市	ギリシャ
	寄 居 町	ブータン
千葉	山 武 市	スリランカ
	流 山 市	オランダ

▼ホストタウン 2020年の東京五輪・パラリンピック参加国との交流事業を担う自治体のこと。自治体からの申請を受け、国が審査・登録する。ホストタウンになると、事業費の半額を国から支援してもらえる。今年1月の第1次登録で44件、6月の第2次登録で47件が登録された。

町田市 若者がサッカー交流 厚木市 夏祭りで食文化紹介